

ふじのくにグローバル人材育成事業 報告書

参加した コース	ふじのくに地域探究コース (観光交流促進コース)		訪問国	イタリア・トルコ	
学校名	静岡県立藤枝東高等学校	氏名	花田くらら	学年	2年

留学の概要

1. 留学地域 イタリア (フィレンツェ)・トルコ (イスタンブル)
2. 留学期間 2025/8/4～2025/8/29
3. 留学のテーマ 「温泉文化と人々の関わり方は日本と海外でどう異なるのか？」

<目的・応募理由>

私がふじのくにグローバル人材育成事業に応募したいと思ったきっかけは、同校のトビタテ 9期生の先輩である水野美咲先輩の、インドネシアバリ島留学の報告発表を聞いたことだ。美咲先輩は、持続可能な観光産業を留学の探究テーマに掲げ、エコツーリズムの観点から、観光地としてのバリ島の姿だけでなく、環境汚染や貧困の孤立化などのバリ島に隠された問題を目の当たりにして、支援の輪を広げるために、バリ島の現状を多くの人に伝えるエヴァンジェリスト活動を行っている。そんな美咲先輩の大きな背中を見て、私もこの静岡をよりよい街にするためにアクションを起こしたいと思い、ふじのくに人材育成事業への応募を決めた。私が思うトビタテの最大の魅力は、全国のトビタテ生が集まるコミュニティに参加できることだ。同年代の留学に興味を持った学生同士で、研修会を通してグローバルな問題について互いに意見を交換することで、良い刺激を与え合える貴重な機会になると考えた。私は過去にオーストラリアに1ヶ月の間、語学留学を経験して、留学を通してオーストラリアにはバスタブに浸かる習慣がほとんどなく、日本のような温泉やスパのような施設がないことに気がついた。日本では当たり前な温泉文化が、海外では存在しないことにカルチャーギャップを受けた。それと同時に、温泉文化が存在する国では、日本とどのような温泉文化の違いがあるのだろうと興味を持ち、今回の留学の問いに設定した。



<探究活動>

留学中に現地の語学学校に通い、簡単な日常会話が交わされるようになることを目標に、現地で使われている言語を学んだ。現地の図書館や資料館、遺跡を訪れ、各国の温泉文化や温泉療法の歴史的背景について

考察するための情報を収集した。イタリア滞在中には、16世紀に温泉文化で大いに栄えた都市である「Montecatini Terme」を訪れ、トスカーナ地方で古くから親しまれてきた治癒力のある温泉の飲泉文化を実際に体験した。また、ローマではカラカラ浴場などの公衆浴場（テルメ）の遺跡や関連資料を見学し、古代ローマ時代における温泉が治療や衛生のみならず、社交や政治の場としても機能していたことを学んだ。これらの体験を通じて、イタリアにおける温泉文化が医療・健康を重視しつつ、都市文化や歴史と密接に結びついて発展してきた点を、文献調査だけでなく実体験として理解することができた。トルコでは、ハمامと呼ばれる古くから人々の生活に根付いてきた温泉施設を実際に体験し、現地の職員に対して利用者の利用頻度や温泉の効能、利用目的などについてアンケート調査を行った。その結果、ハمامが身体の清潔を保つ場であると同時に、地域住民の交流やリラクゼーションの場として重要な役割を果たしていることが分かった。また、宗教的習慣と結びついたトルコ独自の温泉利用文化が存在することを、現地での聞き取りを通して理解することができた

<結論>

今回の留学を通して温泉文化を探求して分かったことは、温泉はどの国でも体を温めるためだけのものではなく、その時代の人々の暮らしや社会と深く結びついて発展してきたということである。古代ローマでは、温泉は生活に欠かせない公共施設だった。カラカラ浴場のような大規模なテルメ（浴場）には浴槽だけでなく、運動をする場所や庭園、図書室もあり、人々は入浴をしながら会話を楽しみ、情報交換を行っていた。温泉は衛生や治療の場であると同時に、人が集まり、社交の場でもあった。しかし、ローマ帝国の衰退とともにこうした巨大な浴場は使われなくなり、温泉は次第に治療や健康を目的とした利用へと形を変えていった。その流れが、モンテカティーニ・テルメの飲泉文化などに受け継がれている。トルコのハمامは、ローマの浴場文化の影響を受けながら、イスラム教の考え方と結びついて発展した。トルコでの入浴は、礼拝の前に汗を流して体を清めるという宗教的な意味を持ち、日常生活の中で欠かせない場所となっている。また、ハمامは現地の人々が集まり、世間話をする交流の場でもあり、今でも地域の暮らしに深く根付いている。日本の温泉は、自然の中で湯に浸かり、心と体を休める場として発展してきた点が特徴的である。こうして比べてみると、同じ温泉でも、古代ローマでは都市と国家を支える公共施設、トルコでは宗教と生活に結びついた場所、日本では自然とともにある癒やしの場として役割が異なっていることが分かる。温泉文化は、それぞれの国の歴史や価値観を映し出す鏡だと言える。

